

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800072		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	ファミリア小坂(グループホーム)		
所在地	岐阜県下呂市小坂町坂下716番地1		
自己評価作成日	平成29年2月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kan=true&jiyosyoCode=2192800072-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住み慣れた地域社会と自然環境の中で四季折々の行事を楽しんでいただき生き生きとした馴染みのある生活が送れるよう努力しています。職員は法人の理念をモットーに一人ひとりが意識を持って利用者様の残された力が発揮できるように支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR高山線を走る列車の音と、清流飛騨川を眼下に望む、自然豊かな場所にある。職員は、地元出身者が多く、日々、地域住民と親しく交流している。法人合同の行事には、家族や地域住民も参加し、盛大に行われている。レクリエーション協会やボランティア団体が定期的に訪問し、健康づくり体操や種々のレクリエーションを行ない、身体や脳の活性化を図っている。個々の残存能力を活かした野菜作りや編み物、カラオケを楽しむ利用者の表情は、朗らかで明るい。管理者は、地元の人材を最優先で採用し、無理のない勤務体制や資格取得を支援し、働きやすい職場作りを心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員共に各自の名札に理念を明記し、常に理念を念頭に介護サービスが提供できるよう努力している。	職員は、各自の名刺に明記された理念を常に意識し、日々の暮らしに活かしている。職員会議でも理念の意義を確認している。利用者の安心と尊厳を守り、住み慣れた地域の中で、快適に生き生きとした暮らしができるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々に訪問していたり、芸能やレクリエーションを共に楽しんでいただいている。	事業所は広報誌「おたっしや倶楽部」を地域に毎月発行し、状況を伝えている。自治会員として、地域の祭りや消防訓練にも参加している。中学生の福祉体験や子供たちとの交流、ボランティア訪問や住職の法話などがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月ある運営推進会議の構成委員を通じて、地域での問題や困り事等の相談を受け専門職としてのアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で提案いただいた件についてすぐ検討実施している。施設情報誌を地元地域へ回覧しボランティアグループの紹介や行事への参加をいただいている。	隔月ごとの運営推進会議では、事業所の活動や利用者の状況、ヒヤリハット事例などを報告し、意見を交わしている。災害時の避難や介護職の資格取得、介護保険料など多様な意見を話し合い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と協力関係を築くため日頃から連絡を取り合うよう努めている。	市の担当者とは、日常的に電話で相談できる関係を築いている。運営推進会議や市主催の会議の際には、事業所の運営状況や課題点を話し合っている。事故や困難事例があれば、その都度行政に出向き、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は勉強会等で身体拘束をしない介護ケアを認識し心がけている。	毎月の職員会議では、身体拘束の弊害について再確認し、利用者にとって不快感のない声かけを心がけている。転倒事故の恐れのある人には、センサーの利用や、ベッドを低くして布団を敷くなどの工夫で、拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会で話し合い虐待防止を徹底することを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用して入居している利用者様がいるので関係者と話し合いがスムーズに対応できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設の方針・内容などについて十分に説明し理解・納得していただいた上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や来訪された家族とのコミュニケーションを大切に信頼関係を築けるように心掛けている。	家族の訪問時には、意見や要望を聴いている。毎月のホーム便りには、担当者が手書きで、個々の状況を報告し、意見箱の設置もある。トイレ介助や服薬についての意見や、外出希望等があり、それらの意見や要望を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た問題点や意見を職員会議やミーティング等で話し合い方針を決めている。	毎月の職員会議には、管理者も出席している。各委員会より、転倒防止策や服薬の管理など、ケアに関する意見や、書類の簡素化、職場環境、浴室の手すりの設置などの提案があり、それらの意見を検討し、改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や勤務態度・各自のやりがいなど向上心を持って働いていることは把握し評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勉強会では職員が講師となり、職員はもちろん全体のスキルアップを目指している。法人外の研修も受講できる機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市内同法人3事業所の管理者・主任級職員で勉強会を実施しネットワークづくりやサービスの質を向上させていく取り組みをしている。他法人へも訪問調査を交互に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の願い・要望・思いを家族より情報収集し、入所後の本人の安心した生活環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が常に不安に思っていること、悩んでみえること、また要望等をしっかりと傾聴し信頼関係がもてるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始の相談を受けてから本人・家族の実情や要望をもとにアセスメントを行い、何が必要かを見極めサービスに反映できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的な立場でなく本人一人ひとりの性格・人間性を考慮した上で利用者と同じ目線・立場で介護していくことを常に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご本人への意向や思いを伺いながら、共に支援しているという、より良い関係が築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みのある場所やまた季節の花見・紅葉等へドライブに行く外出支援を行っている。明るい雰囲気作りに努めいつでも面会・訪問していただいている。	家族と一緒に一時帰宅し、墓参りや孫の結婚式などに出席している。職員と共に、併設の事業所や地元の景勝地に出かけ、馴染みの人と出会っている。定期的なパンの出張販売の人や理美容師、ボランティアとも馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係の理解に努め一人ひとりが孤立することなく、良好な関係が保てるよう配慮している。行事やレクリエーション等で触れ合い交流できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ入所された時など本人様は不穏な状態が続く事も考えられ、環境変化にも対応できるようサマリーなどの情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に少しでも寄りそえるようにカンファレンスを検討し対応している。	日々の暮らしの中では、担当職員を中心に、本人の思いや意向を把握し、職員間で共有している。意思疎通が難しい場合は、しぐさや表情から思いを汲み取り、筆談したり、家族の意見も聴くなど、利用者の希望する暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーを活用したり、本人様の「やりたい」の意志に手助けをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日心身の状態が変わるので介護記録や申し送りを読み把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの要望を貴重したり、職員からの意見を元に介護計画を作成している。	介護計画作成時には、家族の訪問時や手紙でその旨を伝え、意見や要望を確認している。介護支援専門員は、担当の職員の意見や介護記録を参考に、日頃から聴いていた利用者や家族の意見が反映された介護計画を作成している。	サービス担当者会議には、利用者・家族・担当職員が参加される事が望ましい。お互いの思いが十分に話し合える会議になる事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記録に記入することで職員間で情報を共有したり今後の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「安心・安全・安楽の介護」など状況に応じた柔軟な支援を行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月理美容を利用したり、お寺の住職による講話を催している。地域ボランティアに依頼し歌や踊りなどの催し物を楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診を行っている。体調の変化を常時確認し、状況に応じた医療提供ができるように努めている。	法人医師による、月2回の往診がある。受診が必要な場合は、協力医院に職員が同行している。特定疾患については個別のかかりつけ医に、家族と共に受診している。歯科医の口腔ケア指導もあり、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタル測定を行い体調や様子の変化を看護師に正確に報告・相談し適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換等は病院関係者と早期に電話やサマリーで連絡を取り合っている。その情報はスタッフ間で共有し、早期に準備を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所やその時の状況に応じて意向調査を行い、家族と確認を行っている。終末期には家族との話し合いを密にし望まれる生活ができるように支援している。	重度化・終末期の指針を入居時に説明している。重度化の段階に応じて、利用者・家族の意向を確認し、関係者で共有している。事業所で可能な医療行為までを原則とし、家族の協力の下、出来る限りの終末期介護の体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で急変時の対応など多機にわたり学習している。救急対応の方法を消防署の方より指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を受けている。毎月運営推進会議を行い、地元の方々の協力をお願いしている。また周辺での災害時は避難所として利用していただくよう承諾している。	定期的な災害訓練では、消防署の協力の下、火災を想定した避難誘導、消火、救命訓練を行っている。建物が耐震構造であることから、災害時の一時避難所として、無理のない範囲で、地域との相互協力体制を構築している。	行動指針をマニュアル化し、地震や夜間も想定した災害訓練を実施される事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の介護の中で利用者様一人ひとりの人格を大切に、そのように接する心掛けと言葉遣い・態度について職員間や会議で確認している。	利用者を人生の先輩として敬い、その人らしさや自己決定を尊重している。常に穏やかな声かけをするよう心がけ、名前は「さん付け」を徹底している。就寝時には、利用者自身で部屋の鍵かけをしている。入浴や排泄時には羞恥心に配慮し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の介護の中で利用者様の訴えや希望を少しでも把握できるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを尊重し、一日の様子を注意深く観察していくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みや希望に応じて個性のある支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒にできる範囲で準備や食事、片付けをしている。またおやつ等一緒に作れる機会を設けている。	調理部門が一括して、法人全体の食事を調理している。職員は、運ばれた料理を盛り付け、利用者も配膳や片づけを手伝っている。職員は、見守りや食事の介助をしながら、身近な話題を提供し、楽しい食事時間となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量を記録し職員全体で把握している。利用者様一人ひとりの状態に合わせて食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアはもちろん声かけや介助にて口腔内の清潔保持を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェックし個別に必要な支援を行い、一人ひとり自立に向けての介助をしている。	個々に合わせた排泄用品を使用し、身体の状況や頻度に応じて、声かけ・誘導している。失敗が軽減し、布パンツのみに変わった人もある。夜間もポータブルトイレを使用せず、個々に合わせてトイレ誘導し、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握し、看護師の指示に基づいて内服薬及び座薬を使用している。水分多めに摂取やヤクルトなどの提供を行い便秘予防への対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせて菖蒲湯・ゆず・かりん風呂につかっていただき香りや季節を感じてもらい楽しんでいただいている。	入浴は週3回を基本としているが、回数や順番などの希望があれば、柔軟に応じている。重度の利用者には機械浴で対応している。手すりを増設し、安心・安全で、ゆったりと気持ちの良い入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休みたいときに休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬忘れや誤飲がないようにスタッフが確認するようにしている。薬に関することは職員会議で話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできることを職員と一緒にしている。カラオケや日中暖かい日は散歩など本人の意向に沿って、楽しみ事ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々にできることを職員と一緒にしている。カラオケや日中暖かい日は散歩など本人の意向に沿って、楽しみ事ができるように支援している。	日常的に広い敷地内を散歩したり、併設の事業所に出かけている。個々の希望に沿って、職員と一緒に、喫茶店や買い物にも出かけている。家族の協力を得て、美容院や一時帰宅をする人もある。季節の花見や紅葉狩りは、年間行事として出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ方には自販機の利用・パン・ヤクルトなどの出張販売の利用。希望によってローソン等への買い物頼まれた時応じている。物品は本人に渡すか、又は預かり必要な時渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった時はなるべく電話を使っていただくようにしているが、帰宅願望が強い利用者には断っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・安全に心掛け清掃している。利用所が書かれためり絵や共同作業で作った絵を壁に貼っている。1月は花もち、3月はひな様など季節のものを飾っている。	共用の間は、清潔感があり、広くて明るい。室温も適切に管理されている。飛騨地方特有の花餅飾りや雛段に季節感がある。共同作品のはり絵や習字を掲示し、観葉植物や花を飾っている。随所に大きなソファを配置し、利用者が好きな場所で、寛げる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は重要で気の合う合わない利用所を考え一番良い席を決めている。レクリエーションの時は円形になって一緒に過ごせることに努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	色々持ち込んで置いてあったり、作っている物を置いてあったりしている。ご家族と相談でベッドのみで何も置いてない居室もある。	部屋の入り口には、利用者手作りのリースを飾っている。馴染みの家具類やテレビを自由に持ち込み、使いやすく配置している。備え付けの収納棚には、鏡や化粧箱、日記帳、雑誌などがあり、自分らしく落ち着いて過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場面に応じ手すりを設け、安全・安心に行動していただけるようになっている。新しく風呂に手すりをつけた。		